

お隣の愛が重すぎ夜神さんは監禁性活で孕ませたい

※注意

ここから先は、本作「お隣の愛が重すぎ夜神さんは監禁性活で孕ませたい」の全トラック及び、3000DL特典まですべて試聴(読了)後にご覧ください。

続編に繋がるネタバレがございます。ご注意ください。

【1万DL特典】暗くて湿った二人きりの地下室へ

ごぼっ……ぐふっ……ごぼっ……

排水溝に流れる水。何かが奥の……さらに奥に詰まっている……。中を覗きこもうとしてやめた。ここは後でいい。それよりも彼女が過ごす空間を綺麗にすることが優先だ。

ガタ……ガタガタ……

「大丈夫、一人きりにしないよ」

吐く息が少し白い。季節はもう十一月だ。彼女に出会ってから時の流れが一瞬に感じる。ここは先月までいた都内のアパートよりも冷えるが、山奥の地下室故に人目を気にする必要がないことが利点だ。

ガタ……ガタガタ……

しばらくこのコテージを使っていなかったから、空気がゆがんで湿っている。窓があれば換気もできるがあいにく小さな換気口くらいしかない。暖かくしなければ、彼女が快適に過ごして孕めるように、色々と改善が必要だと感じる。

「待っててね、もうすぐだよ」

新しいベッドシート、彼女を縛っている椅子、柔らかいブランケット、ロープ、彼女のお気に入りへのヘアブラシ、赤いボンテージテープ、監視カメラ、記入途中の出生届け……いつ孕んでもいいようにもつと準備をしていかないと。

ガタ……ガタガタ……

「お待たせ、いい子に待てたね」

彼女の目隠しを外してあげる。不安げに揺れる二つの黒い目に僕だけが映る。ご覧、ここが僕とキミが一生幸せに暮らす新しい場所だよ。

お隣の愛が重すぎ夜神さんは監禁性活で孕ませたい

「僕の愛しい人。さあ……まずはどこから可愛がつてあげようか」

続編へ続く